特集

学ぶ力をはぐくむために

未来を創る子どもたちに学ぶ力を

浦安市では自ら学ぶ力をはぐくむために、子どもたちが楽しく学びながら基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、学ぶ意欲を高めることができるように、独自のさまざまな取組を行っています。

また、中学校を単位とした地域で、幼稚園・保育園と小学校、小学校と中学校が協力し、義務教育９年間を見通した小中連携・一貫教育を推進しています。

学級担任とＡＬＴによる指導（東野小）

外国語の学習の推進 ～ＡＬＴの配置

ＡＬＴとは、英語を母国語としている「外国語指導助手」のことです。市内の小・中学校に配置され、小学校の外国語活動や中学校の英語の授業で、学級担任や教科担任とともに学習指導をしています。

「Good morning, classmates !」、教室に響き渡る英語による挨拶。ＡＬＴの発音に続いて子どもたちの元気のよい英語が聞こえてきます。小学校では、平成二十三年度より、五・六学年に「外国語活動」が必修化されました。外国語活動教材「Hi, friends!」をテキストに年間三十五時間が実施されています。挨拶や簡単な単語や会話を、歌やゲームなどを取り入れながら、「声に出すこと」を中心に学習しています。

ＡＬＴは、学習以外でも、清掃活動や休み時間の遊び等、学校の教育活動全体を通じて、英語で児童生徒との交流を深めています。

ＡＬＴが英語で話しかけることの積み重ねは、子どもたちが英語に慣れ親しみ、積極的に英語で話そうとする意欲を高める効果を生み出しています。

少人数単位での学習（東小）

さまざまな方法での学習 ～少人数教育の推進

浦安市では全ての小・中学校に独自に採用した少人数教育推進教員を配置し、小学校では主に算数の指導を、中学校では数学・英語・体育の指導を行っています。

各学校では、担任と少人数教育推進教員が、クラスを複数で指導したり、学年やクラスをグループに分けて、少人数単位で指導したりするなど、子どもたちの様子や学習内容に応じた学習方法を工夫しています。

少人数教育推進教員が指導に加わることで、子どもたちの理解の様子や進み具合などが把握しやすくなり、一人一人の考えや思いが学習の中で生かせるようになります。

このような一人一人の学びを大事にする学習を推進することにより、子どもたちの「わかる・できる」を実感できる授業を目指しています。

学校図書館に本の先生 ～学校司書の配置

市内の学校図書館には、「本の先生」がいます。浦安市では、平成四年度より司書の資格をもつ「学校司書」が順次配置され、平成十一年度より、すべての学校に配置されています。本の管理などの図書館の管理に加え、読み聞かせや図書の紹介などの読書活動や調べ学習などの授業に携わっています。

このように、すべての授業日に学校司書が配置されているのは、県内でも数例しかなく、先進的な取組です。

多くの小学校では、保護者や地域の方々の協力で、読み聞かせ活動が盛んに実施されています。

朝読書の取組などとともに子どもたちの読書活動に大きな成果を上げており、学校図書館の貸し出し冊数も年々増えています。

また、学校では、読書以外の学習における学校図書館の活用を推し進めており、子どもたちが疑問を解決したり、さらに詳しく学習を深めたりするために、図書資料を活用して、自ら学ぶ力を育てています。

図書資料を使った調べ学習（舞浜小）

小中連携・一貫教育の取組

学ぶ力をはぐくむためには、「学びの連続性」を重視した学習活動が不可欠です。

浦安市では保育園・幼稚園及び小・中学校の教職員が連携しながら就学前から義務教育九年間を見通した学習指導を行う『小中連携・一貫教育』を推進しています。

中学校区の教職員による情報交換会では、児童・生徒の学習面での課題を明らかにし、その解決策について協議したり、小・中学校で一貫して取り組むべきことを検討したりするなど「確かな学力をはぐくむ」という共通の願いをもって熱心な話し合いがなされています。

また、相互の授業参観を通して、小・中学校それぞれの段階で身に付けておくべき学力を明確にしたり、学習形態のちがいによる小・中学校の『段差』を緩やかにして生徒の学習への不安を軽減する工夫をしたりしている中学校区もあります。さらには、小・中学校教職員のティームティーチングによる授業を実施し、それぞれの教職員の専門性を生かした授業の充実を図っている学校もあります。

今後も各中学校区の実態に即して、家庭や地域と連携しながら取り組み、浦安っ子の学ぶ力をはぐくんでいきます。

中学校区での情報交換（富岡中学校区）

学校・家庭・地域の連携で子どもたちに学ぶ力を

未来を生き抜く子どもたちに「学ぶ力」をつけることは大人の責任です。

子どもたちは、「なぜ？」「どうして？」と問いかける幼児のころから、学ぶ力を自ら身に付けていきます。周囲の大人が「そうだね」「どうしてだろうね」と共感したり「調べてみようか」と導いたりする一言は学ぶ力を大きく育てます。

また、「勉強しなさい」の声かけだけでは、子どもの学習習慣は身に付きません。子どもたちの小さな頑張りや成果に対して「すごいね」「頑張ったね」などの声かけを心がけましょう。褒められた・認められた体験は子どもたちにとって大きな励みになります。

読書の習慣や生涯学び続ける学びの姿勢づくりには、周囲の大人のかかわり方やよきモデルの存在が欠かせません。

ある中学区では小・中学校が連携して家庭学習に取り組む動きや、公民館で市民が学習を支援する取組等も生まれています。

学校、家庭、地域が連携して、子どもたちに「学ぶ力」をつけるための新しいチャレンジが始まっています。

千葉県教育委員会では、学年別に「家庭学習のすすめ」リーフレットを発行しているほか、小学生向けに「ちばっ子チャレンジ100」、中学生向けに「ちばのやる気ガイド」などの問題集も作成し、学力向上と学習習慣づくりを支援しています。

（千葉県教育委員会
ホームページからダウンロード可能）